

日銀 - 「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入 -

＜マイナス金利付き量的・質的金融緩和＞

日本銀行は1月29日の金融政策決定会合で「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入を決定しました。今回導入された政策のポイントは以下のとおりです。

- ・金融機関が保有する日本銀行当座預金の一部に▲0.1%のマイナス金利を適用する。今後、必要な場合、さらに金利を引き下げる。
- ・イールドカーブの起点を引き下げ、大規模な長期国債買い入れとあわせて、金利全般により強い下押し圧力を加えていく。
- ・これまでの「量」（金融市場調節）・「質」（資産買い入れ）の政策に「マイナス金利」を加えた3つの次元の緩和手段を駆使して、金融緩和を進める。

＜株高・円安へ＞

政策導入の発表直後、日経平均株価は前日比+597.48円高い17,638.93円まで上昇しました。為替市場では前日比2円60銭安となる1米ドル=121.42円まで円安米ドル高が進みました。

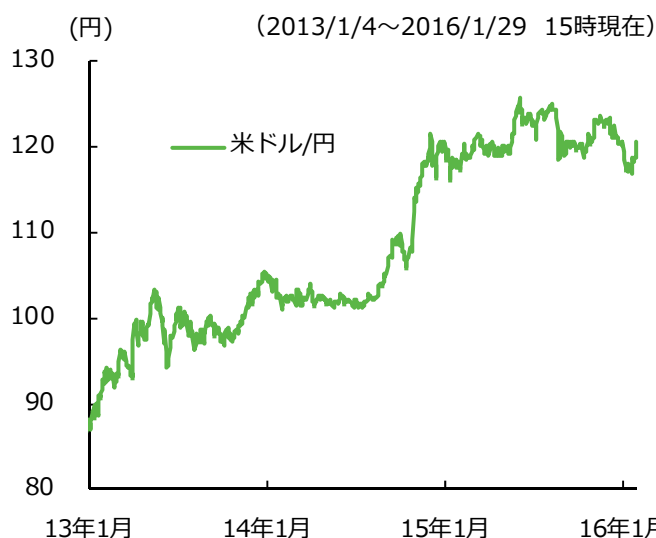
その後、日本株は前日比マイナスとなる水準まで一旦は下落したものの、再び上昇に転じ、29日の日経平均株価の終値は前日比+476.85円高の17,518.30円となりました。為替市場では15時現在、1米ドル=120.53円となっています。

＜今後の見通し＞

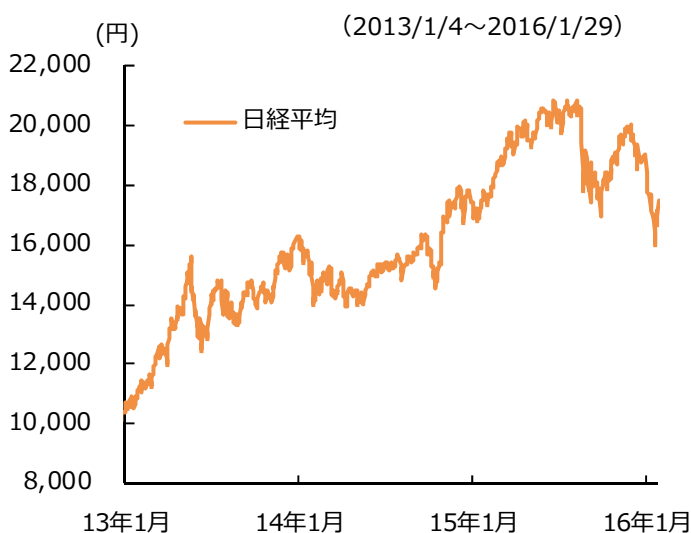
日本銀行のマイナス金利導入の発表に対して株式市場、為替市場はポジティブに反応しましたが、今回の政策変更によって日本銀行は必要があれば追加金融緩和を行う姿勢であることが改めて示されました。

一方、米国ではFRBは政策金利を引き上げる方針を維持しており、政策金利は緩やかなペースで引き上げられていく見込みです。日米の金融政策の方向性の違いから米ドル高円安傾向が続くことが見込まれます。

＜米ドル/円の推移＞



＜日経平均の推移＞



出所：Bloomberg